

# 西条市水道事業経営戦略【概要版】

令和8年3月改定

## 1 経営戦略改定の背景と内容

計画期間は、**令和8年度から令和17年度までの10年間**です

水道事業は、人口減少に伴う料金収入の減少と老朽化施設の更新や物価高騰などによる費用の増大により、一層厳しい経営状況に直面しています。令和2年度の経営戦略策定後、5年経過したことを踏まえ、経営戦略を見直し、将来にわたり健全で持続可能な経営を確保するために改定を行いました。

## 2 西条市水道事業の概要

経営改善の取組により、現在の経営状況は**概ね健全な状態**を維持しています

### ●事業統合

効率化及び経営基盤の強化を図るため、令和3年度から5つの上水道事業、3つの簡易水道事業、1つの専用水道事業を統合し、事業運営を行っています(経営(会計)統合)。

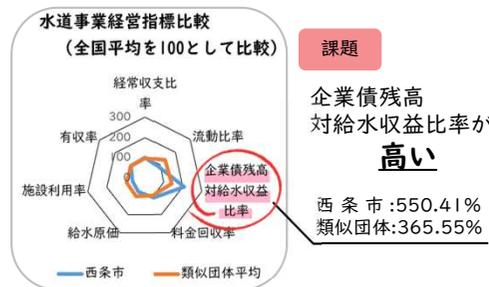
### ●料金改定

平成27年度から段階的な料金改定を行い、令和4年度に市内全域で料金と料金体系(口径別)の統一を達成しました。給水人口の減少に伴い、**使用水量は減少**していますが、**この取組により料金収入は概ね維持**しています。また、4年ごとの料金見直しにより、令和8年6月請求分から平均改定率8.4%の料金改定を実施します。

### ●企業債充当率(※)の抑制

令和2年度策定の経営戦略に基づく企業債充当率を50%程度とする取組により企業債残高は減少しています(令和6年度末46.8億円)。

(※)工事等に必要となる費用のうち、企業債(借入金)で賄っている比率

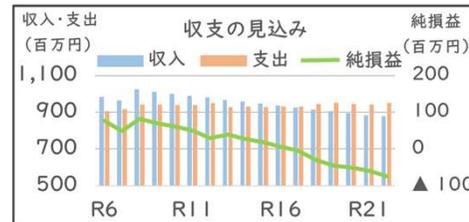


## 3 将来の事業環境

このままいくと、**令和17年度から赤字**に陥る見込みです

### ●収支の見込み

現行の料金水準では、計画期間中の令和17年度に赤字に陥り、その後、更なる水需要の減少や維持管理費用等の増加などから収支は更に悪化していく見込みです。今後も定期的な見直しを行い、適切な時期に料金改定を実施する必要があります。



### ●施設更新費用の見通し

既存の水道施設を法定耐用年数で更新すると仮定した場合、今後30年間で**約666億円**(1年間当たり約22.2億円)の費用が必要となる見込みです(更新ピークは令和23年度)。修繕による施設の長寿命化や費用の平準化を図るなど、計画的に施設の更新を進めていく必要があります。



## 4 経営の基本方針

「**市民に愛される水道をめざして**」を経営戦略の基本理念とします

西条市水道ビジョンで掲げている本市の水道が目指すべき将来像「市民に愛される水道」を目指すことを基本理念とします。また、「第3期西条市総合計画」において「豊かな自然と共生するまちづくり」の基本目標の中で、「生活を支える水を安心して利用できるまち」を目指す姿としていることから、本経営戦略を基に経営基盤の強化、財政マネジメントの向上に取り組みます。

## 5 効率化・健全化に向けた今後の取組

将来の施設更新費用を確保するため、**効率化・健全化**に向けた取組を行います

### ●料金改定

現在の料金水準では計画期間内に赤字が見込まれ、今後も人口減少に伴う収支悪化が予想されるため、コスト縮減策の検討とともに、将来の施設更新費用を確保する観点から、適切な時期に料金改定を行う必要があります。

その他

- 民間資金・ノウハウの活用
- 広域化
- 防災・安全対策
- 資金管理・調達
- 施設管理

## 6 投資・財政計画(収支計画)

企業債充当率を**令和8年度から60%、令和12年度から70%**とし、令和8年度改定後、**4年ごとに8%程度**の料金改定を行うことを基本とします

「投資・財政計画(収支計画)」に基づき、水道事業の健全かつ持続的な経営を目指します。なお、料金改定の時期及び改定率については、給水収益等の実績値を踏まえた財政試算を定期的実施するとともに経営状況の分析を行った上で、使用料等審議会に諮問し、ご審議いただくものとします。

### ●施設更新費用の平準化

更新を法定耐用年数で実施しようとすると、年度によって大きな偏りが生じ、安定した水道事業の経営に影響します。投資の合理化を図ることにより(実耐用年数に近い年数で更新)、更新費用をできるだけ平準化します。



### ●企業債残高の適正化

企業債残高と現金預金残高のバランスを考慮しつつ、過度な負担を次世代に先送りしないよう、将来負担の適正化(軽減)を図ります。

### ●内部留保資金の確保

給水人口減少による利益低下が見込まれる中、投資財源構成の適正化と料金改定による利益水準維持をバランスよく図り、資金を確保します。

## 投資・財政計画(収支計画)

### ○収益的収支

	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17
収入	982	965	1,024	1,012	999	989	1,048	1,036	1,025	1,014	1,066	1,052
給水収益	850	834	895	887	878	870	930	921	912	903	957	948
長期前受金戻入	118	115	114	111	108	108	107	104	103	100	99	95
負担金	6	4	3	2	2	1	1	1	0	0	0	0
その他	8	12	12	12	11	10	10	10	10	11	10	9
支出	906	916	943	943	940	941	954	934	938	939	943	943
人件費	112	112	112	112	112	112	112	112	112	112	112	112
維持管理費	256	268	290	288	284	285	295	284	290	290	296	296
減価償却費	455	456	464	469	472	475	480	471	468	468	465	463
支払利息	83	80	77	74	72	69	67	67	68	69	70	72
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
当年純利益	76	49	81	69	59	48	94	102	87	75	123	109

### ○資本的収支

	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17
収入	275	270	317	290	276	270	295	298	293	291	287	287
企業債	207	211	271	253	244	238	269	280	280	280	280	280
出資金	59	52	40	32	27	26	21	13	9	6	2	2
負担金	9	7	6	5	5	6	5	5	4	5	5	5
支出	821	896	892	865	864	872	805	778	765	762	737	715
建設改良費	381	456	468	438	423	414	402	417	417	418	418	418
企業債償還金	440	440	424	427	441	458	403	361	348	344	319	297
差引(不足額)	△546	△626	△575	△575	△588	△602	△510	△480	△472	△471	△450	△428
企業債残高	4,678	4,448	4,296	4,122	3,926	3,706	3,572	3,490	3,422	3,357	3,318	3,300

※不足額は、損益勘定留保資金等で補填